

## 平成27年度 授業シラバスの詳細内容

|               |  |     |             |         |
|---------------|--|-----|-------------|---------|
| 科目名(英)        | スポーツリテラシーⅡ (Sports LiteracyⅡ)  |     | 授業コード       | E001301 |
| 担当教員名         | 堀 仁史、岡村 典慶、岩元 正敏、郡 弘文、武田 正芳  |     | 科目ナンバリングコード | E20801  |
| 配当学年          | 2  | 開講期 | 前期          |         |
| 必修・選択区分       | 必修(CSCSおよびNSCS-CPT受験希望学生)<br>選択(一般学生)  | 単位数 | 2           |         |
| 履修上の注意または履修条件 | 1. 受講申し込み時に3,000円(教本、保険代、教材セット等)の教材費を納付してください。<br>2. 実技のできる服装で受講してください。第1回ガイダンスで説明します。 |     |             |         |
| 受講心得          | 出席は毎時間取ります。  |     |             |         |
| 教科書           | 赤十字救急法基礎講習教本<br>日本赤十字社編集 株式会社 日赤会館発行所<br><br>赤十字救急法講習教本<br>日本赤十字社編集 株式会社 日赤会館発行所       |     |             |         |
| 参考文献及び指定図書    | 「救急法基礎講習教本」および「救急法講習教本」使用(第1回ガイダンスで配布)   |     |             |         |
| 関連科目          | 健康の科学・スポーツ科学・生涯スポーツ指導  |     |             |         |

|       |   |
|-------|---|
| 授業の目的 | 赤十字救急法とは、病気やけがや災害から自分自身を守り、けが人や急病人を正しく救助し、医師または救急隊員などに引き継ぐまでの救命の手当及び応急の手当をいいます。救急法を学ぶ目的は、誰もが事故を防止し、緊急時に必要な救助や手当ができるように、正しい救急法の知識と技術を身につけることであり、人間愛に基づいてこれを行うことであります。                  |
| 授業の概要 | 夏季集中講義(3日間)で行います。第1日目は救急法基礎講習と「理論」および「実技」を学習し、筆記試験と実技試験を実施します。合格者は引き続き、救急法講習の「理論」を受講します。第2日目は「止血法」について理論を学習した後、「包帯法」の実技を行います。第3日目は「搬送」「固定法」の理論および実技を学習した後、救急法講習の「実技試験」および「筆記試験」を行います。 |

| ○授業計画  |             |
|--|-------------|
| 学修内容   | 学修課題(予習・復習) |
| <b>第1週：ガイダンス</b><br>この授業の全体内容の説明をします。導入として、赤十字社の実施している普及事業の救急法、水上安全法、雪上安全法、家庭看護法、幼児安全法について概要を学習します。  |             |
| <b>第2週：赤十字社救急法</b><br>赤十字救急法とその目的や範囲及び救助者が守るべきことを学習します。  |             |
| <b>第3週：救急法実施上の一般的注意</b><br>一般的注意として、手当が必要な場合、手当の基本、傷病者への接し方の注意、現場での留意点などについて学習します。手当の基本として、傷病者の観察、傷病者の寝かせ方(体位)、保温、加温、飲食物などについて学びます。ショックについては、ショックとその徴候、原因、注意すべきことその他、予防のための手当を学習します。 |             |
| <b>第4週：心肺蘇生法 I</b><br>心肺蘇生法とその手順、重要性、必要な場合、範囲などを学習します。気道確保では、その重要性、気道閉塞の原因、気道確保の必要性とその方法を学習します。人工呼吸法では、その生理や種類、呼気吹き込み法の実際や胃の膨らみ、器具の使用などを学習します。                                       |             |
| <b>第5週：心肺蘇生法 II</b>  |             |

|   |                |           |
|---|----------------|-----------|
| <p>循環の整理や心臓マッサージの種類、方法を学習します。子供に対する心肺蘇生法では、意識の確認、気道確保、呼吸の確認、人工呼吸、循環のサインの確認、心臓マッサージなどを学習します。心肺蘇生法に伴う副損傷では、気道確保を行う場合、人工呼吸を行う場合、心臓マッサージを行う場合などを学習します。気道内異物の除去では、気道内の異物やその除去の種類や方法を学習します。他に損傷を伴う場合の同時手当や心肺蘇生法が必要となる特殊な状況について学習します。</p> <p>またAEDを用いた除細動と心肺蘇生法、AEDを用いた除細動の手順、特別な傷病者に対する対処を学習し、救命の連鎖について理解を深めます。</p> |                |           |
| <p><b>第6週：検定</b></p> <p>一次救命処置(心肺蘇生法、AEDを用いた除細動、気道異物の除去)の実技、および筆記試験を行います。合格者には赤十字救急法基礎講習修了者としての認定証を交付します。</p>   |                |           |
| <p><b>第7週：きずと止血</b></p> <p>きずの種類やきずの危険性について学びます。止血では、その仕方や実際、その他の出血の手当を学習します。各部のけがでは、頭、頸、胸、腹、手(指)、とげなどのふみぬき、釣り針を刺したとき、目、歯などのけがについて学習します。特殊なけがでは、熱傷、化学薬品がかかったとき、感電、落雷、低音による障害、咬創、毒虫等による被害などを学習します。道路上での救助作業では、救助に際しての注意やオートバイ事故とヘルメットの脱がせ方について学習します。</p>   |                |           |
| <p><b>第8週：包帯 I</b></p> <p>保護ガーゼ(きずの覆い)や、三角巾の使用方法などを学習します。</p>   |                |           |
| <p><b>第9週：包帯 II</b></p> <p>巻軸帯、応用包帯、絆創膏、ハンカチ等の使用方法などを学習します。</p>   |                |           |
| <p><b>第10週：骨折</b></p> <p>骨折の分類、その観察や手当、固定法について学習します。前腕他各部の骨折の固定を学習します。</p>  |                |           |
| <p><b>第11週：脱臼等</b></p> <p>脱臼、捻挫、打撲、肉離、腱断裂、突き指の症状や手当について学習します。</p>   |                |           |
| <p><b>第12週：急病</b></p> <p>心臓発作・心不全、脳卒中、呼吸困難(喘息、気胸)、腹痛、痙攣、発熱・かぜ・じんましん、脳貧血、中毒、熱中症等の症状や手当について学習します。</p>   |                |           |
| <p><b>第13週：搬送</b></p> <p>一般的注意やその方法について学習します。</p>   |                |           |
| <p><b>第14週：救護</b></p> <p>災害時の心得、大地震の心得、水害の際の心得について学習します。</p>  |                |           |
| <p><b>第15週：まとめ</b></p> <p>これまでの講習内容のまとめと補足内容を学習します。</p>   |                |           |
| <p><b>第16週：検定試験</b></p> <p>学科と実技を行います。全日程受講生には、受講証、検定合格者には、救急法救急員認定証を交付します。</p>   |                |           |
| 授業の運営方法   | (1)授業の形式       | 「演習等形式」   |
|   | (2)複数担当の場合の方式  | 「オムニバス方式」 |
|   | (3)アクティブ・ラーニング |           |
| 地域志向科目  | 該当しない          |           |
| 備考  |                |           |

| ○単位を修得するために達成すべき到達目標 |  |
|----------------------|--|
| 【関心・意欲・態度】           |  |
| 【知識・理解】              | 赤十字救急法に関する基礎的知識および技法を理解し、災害時や事故発生時に、率先して救急法を実践できる態度と能力を養う。 |
| 【技能・表現・コミュニケーション】    |  |
| 【思考・判断・創造】           |  |

| ○成績評価基準(合計100点)  |                     |                   | 合計欄              | 0点 |
|--|---------------------|-------------------|------------------|----|
| 到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点  | 期末試験・中間確認等<br>(テスト) | レポート・作品等<br>(提出物) | 発表・その他<br>(無形成果) |    |
| 【関心・意欲・態度】<br>※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。  | 80点                 |                   |                  |    |
| 【知識・理解】<br>※「専門能力(知識の獲得)」を含む。  | 20点                 |                   |                  |    |
| 【技能・表現・コミュニケーション】<br>※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。  |                     |                   |                  |    |
| 【思考・判断・創造】<br>※「考え抜く力」を含む。   |                     |                   |                  |    |
| <p>(「人間力」について)</p> <p>※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p> |                     |                   |                  |    |

| ○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安 |  |
|------------------------------------|--|
| 成績評価方法                             | 評価の実施方法と達成水準の目安  |
| レポート・作品等<br>(提出物)                  |  |
| 発表・その他<br>(無形成果)                   | 3日間のすべての出席をもって評価の対象とし、救急法救急員の資格試験の結果により、評価(C以上)を決定します。 |